

2006年10月の東北地方の天候

【10月の特徴】

- ・上旬の大雨、太平洋側の暴風・波浪
- ・下旬の東北南部の大雨

(1) 2006年10月の概況

天気は数日の周期で変化し、非常に発達した南岸低気圧や寒気を伴った気圧の谷などの影響で、上旬の6日から7日にかけてと下旬の23日から24日にかけて天気が大きく崩れた。中旬は高気圧に覆われることが多く、概ね晴れの日が多かった。9日に2000m級の山で初冠雪が見られたが、それ以外の山岳では平年よりかなり遅れている所が多い。初霜も22日の盛岡を除いては観測されておらず、平年より遅れている。

月平均気温は、東北地方で高い。月降水量は、東北地方でかなり多い。月間日照時間は、東北日本海側で多く、東北太平洋側で少ない。

(2) 各旬の天候経過

上旬： 低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化した。6日から7日にかけては、低気圧が非常に発達しながら関東の東海上から三陸沖を北上したため、東北太平洋側を中心に大雨となり、三陸沿岸では暴風が吹き荒れて多くの被害が発生した。6日の夜、漁船が女川湾付近で座礁し、乗組員の多くが行方不明となっている。この他、宮城県や青森県を中心に農水産物への被害や浸水害などが発生した。6日から7日にかけての降水量は小名浜で240.5mm、最大瞬間風速は大船渡で40.2m/sを観測した。9日には発達した低気圧が北海道方面に進んで東北地方の上空に寒気が流入したため、岩手山と鳥海山で初冠雪を観測した。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北地方でかなり多い。日照時間は東北地方で少ない。

中旬： 東北地方は高気圧に覆われて晴れの日が多かったが、東北北部は寒冷前線の影響で一時雨の降る日があった。

平均気温は東北地方で高い。降水量は東北北部で少なく、東北南部でかなり少ない。日照時間は東北日本海側でかなり多く、東北太平洋側で多い。

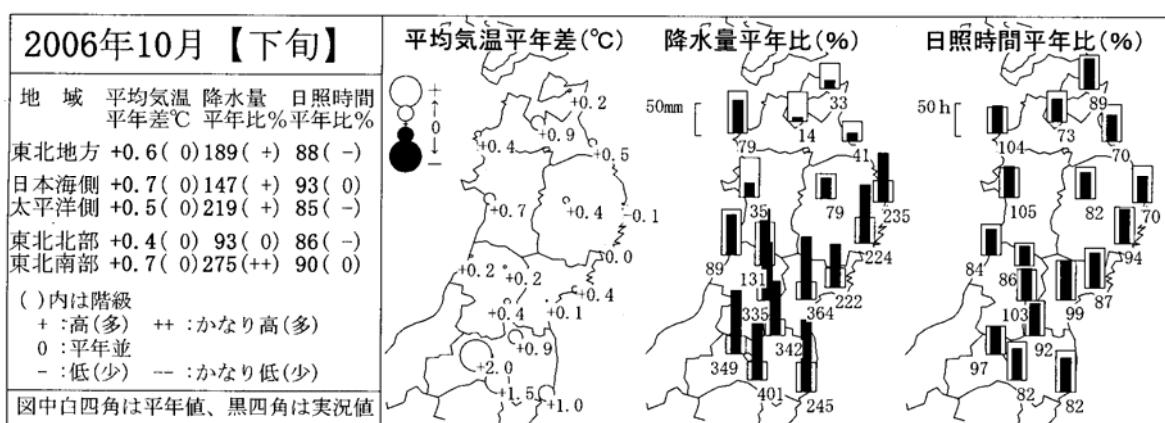
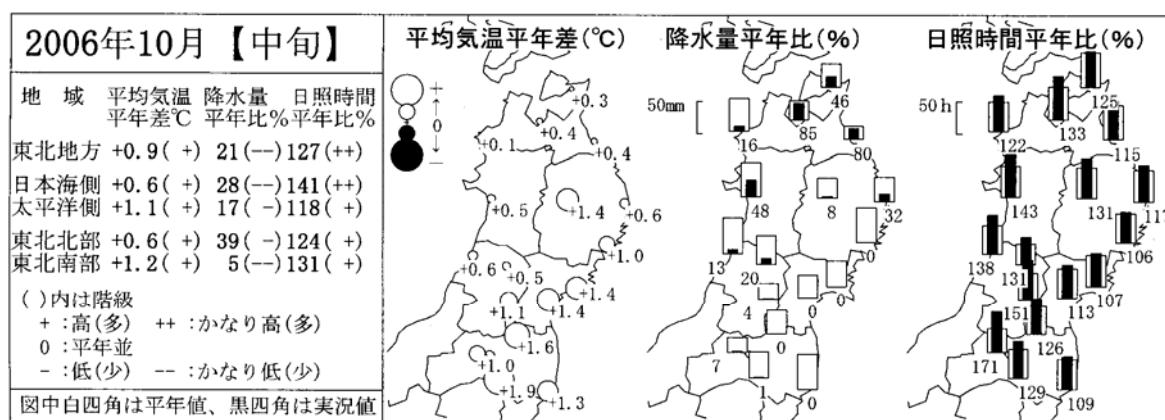
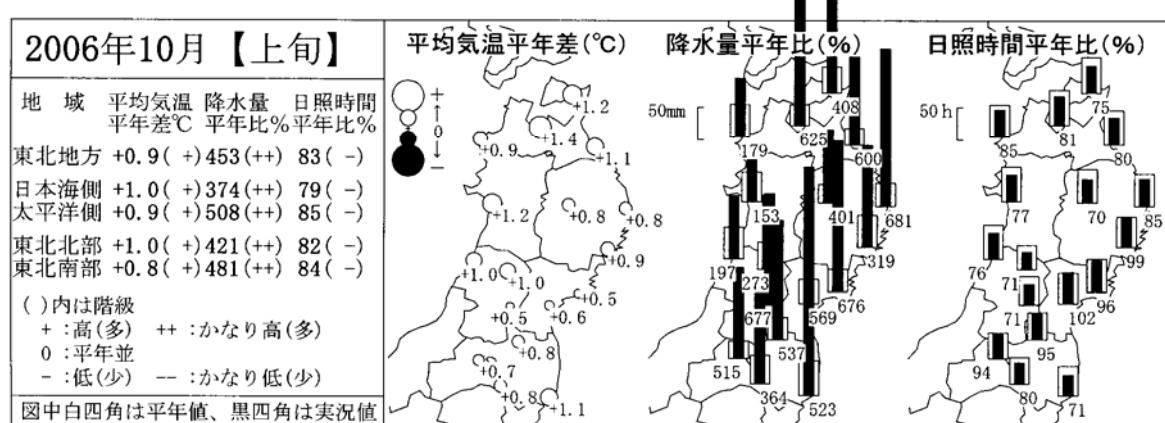
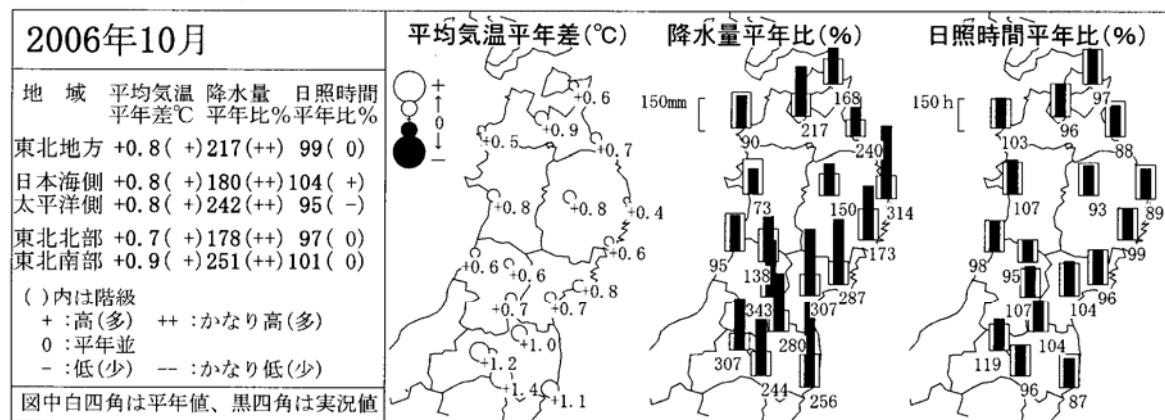
下旬： 期間の半ば過ぎまでは気圧の谷や低気圧の影響で曇りや雨の日が多かった。後半は帶状の高気圧に覆われる日が多かったため、晴れの日が多かった。22日には移動性高気圧が通過した後、寒気を伴った気圧の谷が接近したため気温が下がり、盛岡では初霜を観測した。23日から24日は南岸低気圧と上空に寒気を伴った日本海低気圧の接近で東北南部ではまとまった雨となった。

平均気温は東北地方で平年並。降水量は東北北部で平年並、東北南部でかなり多い。日照時間は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で少ない。

注) 気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、測候所、特別地域気象観測所の観測値より求めています。細分地域については4ページ目脚注1を参照して下さい。

平年値の統計期間は1971-2000年です。階級区分については、4ページ目脚注2を参照して下さい。

(3) 2006年10月の期間・旬平均(合計)値の平年差(比)



平年値の統計期間は1971~2000年。

(4) 2006年10月の月気候表

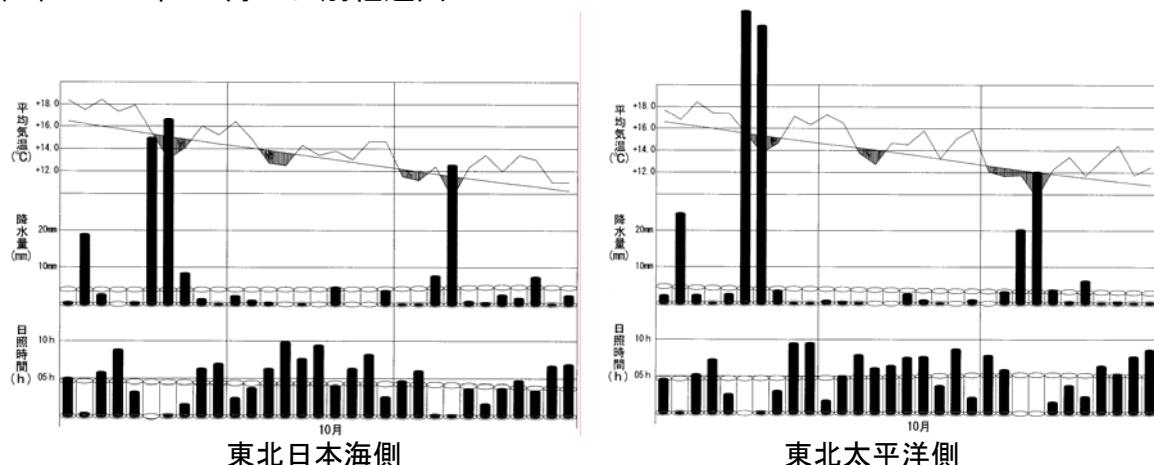
地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		日照時間(平年比) 階級	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)	(h)	(%)
青森	13.5	(+0.9)	+	229.5 (217)	+*	146.7 (96) ○
深浦	13.8	(+0.5)	+	149.0 (90)	○	140.0 (103) ○
むつ	12.8	(+0.6)	+	193.5 (168)	+*	154.9 (97) ○
八戸	13.4	(+0.7)	+	184.5 (240)	+*	142.8 (88) —
秋田	14.4	(+0.8)	+	117.5 (73)	—	158.1 (107) +
盛岡	12.6	(+0.8)	+	146.5 (150)	+	138.9 (93) —
大船渡	14.4	(+0.6)	+	246.5 (173)	+	145.9 (99) ○
宮古	13.5	(+0.4)	+	331.5 (314)	+*	139.2 (89) —
仙台	15.5	(+0.7)	+	305.0 (307)	+*	157.7 (104) ○
石巻	15.0	(+0.8)	+	299.0 (287)	+*	153.0 (96) —
山形	13.9	(+0.7)	+	261.0 (343)	+*	140.8 (107) +
新庄	12.9	(+0.6)	+	209.0 (138)	+	98.7 (95) ○
酒田	15.3	(+0.6)	+	165.5 (95)	○	139.8 (98) ○
福島	15.8	(+1.0)	+	266.5 (280)	+*	144.3 (104) ○
若松	14.4	(+1.2)	+	238.0 (307)	+*	142.6 (119) +
白河	14.6	(+1.4)	+	272.5 (244)	+*	138.4 (96) ○
小名浜	17.2	(+1.1)	+	392.5 (256)	+*	134.6 (87) —

・「階級」の記号の意味は以下のとおり

+:高い(多い) ○:平年並 −:低い(少ない) *は「かなり」を表す

・値の横に) や] がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準完全値)は通常のものと同様に扱うことができるが]付きの値(資料不足値)については、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にして、品質を確かめてから使用されたい。なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

(5) 2006年10月の日別経過図



気象官署の日別観測値と日別平年値の地域平均(気温:実線と点線、降水量・日照時間:黒い円柱と白抜き円柱)

注 1) 細分地域

東北日本海側：青森県津軽、秋田県、山形県、福島県会津

東北太平洋側：青森県下北・三八上北、岩手県、宮城県、福島県中通り・浜通り

東北北部：青森県、秋田県、岩手県

東北南部：宮城県、山形県、福島県

注 2) 階級は「低い(少ない)」「平年並」「高い(多い)」の 3 階級とし、それぞれの階級幅は、1971～2000 年の 30 年間において出現した値を等確率(33.3%)に区分しています。また、低い(少ない)方または高い(多い)方から出現率 10% の範囲を、それぞれ「かなり低い(少ない)」「かなり高い(多い)」と表し、補足的に用います。本資料の本文にある階級の表現も、「かなり低い(少ない)」、「かなり高い(多い)」に該当する場合はそのように記述し、細分地域により階級表現が異なる場合は地域を細分して記述しています。

(6) 2006 年 10 月の極値・順位の更新

(月平均気温、月降水量、月間日照時間の大きい方からの 3 位まで。)

月平均気温の順位更新

なし

月降水量の多い方からの順位更新

順位	地点名	観測値(mm)	これまでの最高(mm・起年)	統計開始年	平年値(mm)
2 位	山形	261.0	280.5(1991)	1891	76.0
	仙台	305.0	347.0(1991)	1926	99.2
	石巻	299.0	394.5(1991)	1887	104.1

月間日照時間の順位更新

なし

(7) 2006/2007 年寒候期 季節現象

官署名	2006/2007 年寒候期 季節現象(初日)								
	初霜			初氷			初雪		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
青森		10.23	10.27		10.29	11.16		11.07	11.8
八戸		10.27	11.16		11.02	11.16		11.11	11.15
秋田		11.06	11.21		11.13	11.21		11.12	11.15
盛岡	10.22	10.18	10.26		10.24	11.1		11.08	11.15
宮古		10.31	11.10		11.05	11.10		11.16	11.30
仙台		11.06	11.20		11.16	12.3		11.22	12.3
山形		10.24	11.1		10.29	11.1		11.16	11.19
酒田		11.12	12.6		11.20	12.6		11.17	11.30
福島		11.06	11.17		11.11	11.17		11.24	12.3
若松		10.28	11.1		11.06	11.1		11.17	11.16
小名浜		11.11	11.18		11.19	11.21		12.13	12.15

初冠雪									
山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年	山岳名	海拔(m)	本年	平年	昨年
八甲田山	1584		10.16	11.8	雁戸山	1485		10.28	11.10
岩木山	1625		10.15	11.9	リュウサン	1362		10.30	11.10
階上岳	740		11.12	11.19	泉ヶ岳	1175		11.6	11.9
太平山	1170		10.31	11.9	蔵王山	1841		10.23	10.24
岩手山	2038	10.9	10.13	10.24	吾妻山	1949		10.21	10.23
鳥海山	2236	10.9	10.9	10.25	飯豊山	2105		10.17	10.24
ガッサン	1984		10.15	10.26	磐梯山	1819		10.24	11.9
朝日岳	1870		10.19	11.10					

注：蔵王山は熊野岳、吾妻山は一切経山の標高を示す。

* 大船渡測候所が平成 18 年 10 月 1 日に特別地域気象観測所へ移行をしたことに伴い、大船渡における寒候期季節現象および五葉山の初冠雪の観測は終了しました。